

石西とグラントワと私

いわみ芸術劇場文化事業課長

大石 純子

今年4月にグラントワいわみ芸術劇場に赴任してまいりました大石です。実は、益田での勤務は15年ぶりで、当時は元町の石西県民文化会館(現・益田市市民学習センター)で働いていました。

私が石西県民文化会館にいたのは2000年から2003年4月までの約3年間でしたが、2001年9月のアメリカ同時多発テロや2002年日韓共同開催のサッカーワールドカップなど、ちょうどミレニアムとも重なり、世の中が騒がしい時期でもありました。グラントワ(当初は確か愛称が決まっていなかったですが…)の基本計画や内藤廣氏の設計に決まったのもちょうどこの頃で、劇場側の立場から意見を求められ、内藤廣先生とお話しす

る機会もありました。

2002年秋に建設工事が始まると、道路に面した現場の仮囲いに、石西県民文化会館で企画したイベントのポスターをしょっちゅう貼りに訪れたものでした。

このたび「グラントワ応援団通信」紙面にてご挨拶の機会をいただいたため、グラントワの歴史を振り返るべく応援団通信の創刊号から目を通して見たところ、私が益田を離れた直後の2003年8月に創刊されていますね。

石西で勤務していた当時、一緒にイベントを開催していた方々が今でも沢山グラントワのボランティアとして活躍されていますし、懐かしくもあり心強いかぎりです。グラントワが出来て。パワーアツ

プしたボランティアの方々と、この応援団通信が、グラントワと私のぽっかり空いた15年を繋げてくれているように感じています。

通りや街並みも変わり、まだまだグラントワ初心者なのですが、どうぞよろしくお願いいたします。



2002年秋から行われたグラントワ建設工事風景

(C) 内藤廣建築設計事務所

再現された法隆寺

の仏像を観る

クローン文化財展(県立美術館)

先般、松江市に出かけ、東京藝術大学の素晴らしい美術展「甦る世界の文化財(法隆寺からバーミヤンへの旅)」を鑑賞しました。

「クローン」は仏像、絵画など文

化財にも存在して、DNAである文化財の素材、質感、技法、文化的背景などを再現することのようです。同大学では「クローン文化財」の技術を開発しました。

まず再現された「法隆寺 釈迦三尊像と金堂壁画」です。奈良の法隆寺で観るものより鮮明でかつ身近で感動でした。製作過程は本体をデジタルスキャンし、プリンターで出力した立体鋳型をつくる。そして金銅仏として加工仕上げるようです。現在は欠落している顔など一部は復元されています。つぎに「破壊されたバーミアン東大仏天井壁画の復元」は破壊される前の姿がそこにありました。その他敦煌、ミヤンマーの壁画の複製、オルセー美術館の絵画の再現、浮世絵の再現など多数の展示があり、触ったりして身近に文化財を感じる事が出来ました。今後クローンの技術のさらなる研究と作品の公開が進むと我々にとっては身近に美術品や広く文化財の出会いを楽しむ機会が多くなることと思われ、期待をしています。(哲)

大きな屋根の下で

石見美術館アテンダント

豊田 亜紀

グラントワに入社して半年が経ちました。私はもともと美術館が大好きで、良く足を運ばせて頂いていました。趣味がカメラで小さな個展も開かせてもらったことがあるのですが、美術館の作品に触れる事は私にとって

感覚的な刺激をもらえたり、世界が広がる大切な空間です。子どもと一緒に観覧したこともありませんが、とても親切で丁寧に対応して下さったのを今でもはっきりと覚えています。トーマスのワークショップは今でも大切な思い出です。

そんな憧れでもあったグラントワでのお仕事は緊張と嬉しさの入り混じったとても新鮮な感覚でした。今までにない専門的な事などもあり不安と緊張がありました。周りの方が優しく声をかけて下さったり、そっとフォローしてもらえるお陰で仕

事にもようやく慣れ、楽しく毎日勤めさせていただいています。

私は10年以上接客業に携わってきましたが、グラントワで接遇を学び、そして先輩方のプロ意識を目の当たりにし、まだまだ学ぶべきことが沢山あることにやりがいを感じています。そしてグラントワは、美術館だけでなく、劇場も一緒になっている全国でも珍しい施設です。県外に住む知り合いにお話するととても驚かれます。

そんな芸術をいろんな方面から楽しめ体感できるこの施設を私自身ももっと知っていき、先輩方の対応などを沢山吸収して、ご来館されたお客様が「来てよかった。」「また来たい。」と思っただけのような温かい接遇が出来ればと思っています。まだまだ出来ない

事の方が多くですが、少しずつアテンダントとして成長できれど思っています。

私が入社して思ったことは、グラントワで働く方やボランティアの方。グラントワに関わる全ての方が大きな家族のように感じました。「グラントワ」大きな屋根」ですが、その名前の通りの温かいほっとできるそんなグラントワの一員になれたことを誇りに思っています。



豊田 亜紀 さん

あ と が き

年追うごとに夏が、ひどく暑く長くなる気がしています。そのせいか短くも感じる秋の一日を藤木大地（カウンターテナー・アルト声部）・福田進一（ギター）デュオリサイタルで過ごされませんか。クラシのプログラムを見ていただきますと、数ある「アヴェ・マリア」の中から最も演奏機会の多い2曲があります。シューベルト作曲の有名曲と、バッハの前奏曲にフランスの作曲家グノーがメロディーをつけたものです。何れも例えようもなく美しい楽曲です。藤木大地さんの美声が楽しみです。ね。

またクラシックギターの名曲「アルハンブラ宮殿の思い出」を日本のギター奏者・第一人者として知られる福田進一さんが独奏されます。そのほかモーツァルトの「魔笛」のメロディーほか演奏されます。

公演はグラントワ小ホールにて
11月23日（金・祝）午後3時開演です。
（陽 窈）